

# ジャガイモ（春作・秋作）

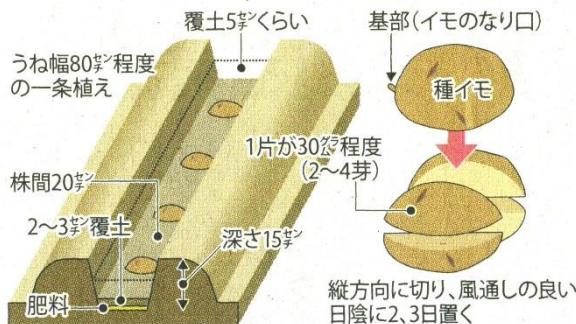


## 芽は3本以下に整理

— 田中 義弘

ジャガイモの原産地は南米アンデス高地で、今では世界中で広く栽培されている野菜です。日本へは1598年に、オランダ人によりジャワのジャカルタから長崎へ導入され、これが「ジャガイモ」の名前の由来とされています。鹿児島県は春ジャガの全国的な産地です。イモの主成分はでんぷんですが、ビタミンB<sub>1</sub>やC、食物繊維も多く含みます。今回は県内各地で一般的な春作を中心に紹介します。

### ジャガイモの栽培



青果用品種は丸イモのニシユタカ、デジマ、長形のメイクイン、ホッカイコガネなどがあります。ほう芽適温は12～15度、生育適温は15～20度で冷涼な気候を好みます。土壌酸度は弱酸性で排水の良い砂壤土が適します。**イモの表面がかさぶた状になる「そうか病」は中性～アルカリ性土壌の連作地で多発しやすく、発生すると防除は困難です。**無病イモを植え付けることが重要です。

| 特徴と利用法 | 品種      | 主な特徴                   | おすすめの利用法      |
|--------|---------|------------------------|---------------|
|        | ニシユタカ   | 丸イモ、早期肥大性、多収、鹿児島県の代表品種 | 煮物            |
|        | デジマ     | 丸イモ、良食味                | コロッケ、ポテトサラダなど |
|        | メイクイン   | 長形、晩生、煮崩れしにくく良食味       | 煮物、とくにカレー     |
|        | ホッカイコガネ | 長形、青果・加工兼用品種           | コロッケ、ポテトサラダなど |

ジャガイモは、3～6カ月の休眠期間があり、植え付けの目安は休眠が明け、芽が動き始めるころです。霜害を受けやすい品目ですので、霜の降りる地域では植え付け

時期に注意が必要です。一般的な春作は3月上旬に植え付け、6月中旬に掘り取る栽培です。5月に収穫したい場合は1、2月の植え付けとなり、マルチが必要となります。

種イモは寒冷地産の夏作イモ、もしくは暖地秋作産のイモを使い、うね幅80cm程度、株間20cm程度、一条植えとします。種イモは一片が30cm程度（2～4芽）に縦に切り、風通しの良い日陰に2、3日置きます。胴切りすると欠株や生育不良株になりやすいので、メイクインなど長形品種は気をつけましょう。種イモの必要量は1畝当たり20～24kgです。小イモは切らずに用いると腐敗しにくいです。

施肥は1平方m当たり堆肥2kg、化学肥料100g（3要素各15%の場合）が目安です。15cm程度の溝を切り、その溝に肥料を施用後2～3cmの厚さの覆土をします。その上に種イモを並べ深さ5cm程度になるように覆土をします。8割程度出芽したころ、芽が隠れるように土寄せをしましょう。雨などで土が流れた場合は、イモの緑化防止として再度土寄せをします。芽数は1株当たり3本以下に整理します。収穫は晴天日に行います。

秋作は8月上旬～9月上旬に植え付け，11月下旬～1月下旬に掘り取ります。種イモは暖地春作の休眠明けしたイモを使用します。

**（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室主任研究員）**

平成27年1月8日（木）／南日本新聞